

【ポスター発表】

ふれあい・いきいきサロン活動の効果的継続についての研究

ーサロン代表者へのフォーカスグループインタビューをもとにー

○ 吉備国際大学 黒宮 亜希子 (会員番号 004958)

キーワード：ふれあい・いきいきサロン活動，継続性，互助・共助

1. 研究目的

総務省（2011）が発表した2010年国政調査結果によると、65歳以上人口の割合は全都道府県で上昇している。世帯動向をみると、高齢者の単独世帯はさらに増加が認められる。人口の高齢化と世帯の単身化にともない、地域における要援護者の孤立や閉じこもりの防止について様々な取り組みが求められている。そこで、本研究は、地域住民による小地域における集いの場づくりの実例である、「ふれあい・いきいきサロン（以下、サロン）」活動に着目する。サロンの定義は「地域を拠点に、住民である当事者とボランティアとが協働で企画をし、内容を決め、共に運営していく楽しい仲間づくりの活動」である。気軽に開設できるため、その数は年々増加しており、全国で約10万（2009年時点）を越えている（全国社会福祉協議会編 2010）。特に、高齢者を中心としたサロン活動が盛んであり（約8割）、日常生活圏域で開催されるその取り組みは、介護予防や、民生委員・福祉委員なども加わることで要援護者への早期のニーズ把握へ繋がるなど注目されている。本研究では、サロン活動の抱える課題、さらにはサロンと地域コミュニティとの関係性について詳細に分析し、活動の効果的な継続について検討することまでを目的としている。

2. 研究の視点および方法

現在、サロン活動の抱える課題として、一度活動を立ち上げた後の継続性（続けていくことについての不安含む）が指摘されている（高野ほか 2007；金井・大川 2008）。その中でも、活動の継続性を左右する要因には大きく3つが挙げられる。①サロンを運営する側の負担感の増加（含：後継者問題）、②サロンへ参加住民の変化（ADLの低下、アクセシビリティの問題など）、③サロンとつながりがある地域内の他の組織・集団の変化や連携の難しさ、などである（黒宮 2012）。本研究では特に、サロンと地域コミュニティ（他の集団・組織を含む）の関係性・相互作用に着目し、その効果的な継続のあり方について分析を行うこととする。

研究の方法として、岡山県A市において、長年活動を行っているサロン代表者3名を対象としたフォーカスグループインタビューを実施した（日時：2011年8月26日）。活動概況をはじめ、①サロンの地域における役割、②地域内の他の集団・組織との関係性、③サロン活動の課題・今後の見通し、3つの概念を中心に半構造化面接に基づく調査を行った。

3. 倫理的配慮

3名の調査対象者には、学術目的としてインタビューを行うことについて事前に同意を得た。当該サロンの担当地域であるA市町村社会福祉協議会から、発表に際しては匿名での発表を行うことについて併せて了承を得た。

4. 研究結果

今回調査を行った3つのサロンは、団地・ニュータウンに立地しており、地域住民の高齢化も徐々に進みつつある。約2時間のインタビューの中で、サロン代表者は活動のきっかけ、現在のサロンの役割について以下のように語るなど、その効果を実感している。

「(サロン活動を始めた頃は・・・) 団地だから横の繋がりが切れてしまうんじゃないかなと思う頃でしたから、隣の一人暮らしの年寄りの方がどうされているかといった気遣いが出来るために、サロンがあって良かったのではないかと考えています。来るのを楽しみにして下さる人がいるので、それを聞いたら良かったなど。参加して今日は楽しかったと言われたら、(サロンを) やってて良かったなあと思います。」(サロン代表者・女性)

サロン代表者らは、サロン開催のきっかけを、薄れゆく地域の“つながりづくり”と捉え、さらに活動を継続することで、サロンを通じた住民同士の「見守り」などが、小地域ネットワーク活動の効果を具体的に述べている。他方で、「サロンの役割を(地域内で)理解されていないと感じる」、「(若い世代の住民は) サロンをただの“年寄りの会”と認識しているのではないか」など、サロンに対する外部(地域)からの眼差しと、自己の役割認識に多少なりとも「葛藤」があることについて述べた。

5. 考察

インタビュー結果をもとに考察すると、サロンの効果的継続のアプローチとして、①活動者自身がサロンの地域で果たす役割を随時確認する視点(地域のニーズも変化する)、②サロン活動の役割・効果について自治会・町内会など地域の住民組織から理解を得る視点、③サロン活動が担っている役割・効果をストレングス(強さ)として第三者(含:専門職)が積極的に引き出す視点、以上3つのアプローチが効果的であると考察される。

付記:本報告は、2010年度～文部科学省科学研究費(課題番号:22310163)「環瀬戸内圏農林漁業地域における女性・若者・高齢者の生活原理に関する総合的研究」(研究代表者:岡山大学 藤井和佐)の研究成果の一部である。